

検査目的

腹部に超音波を当て、肝臓・胆嚢・膵臓・脾臓・腎臓などの臓器を観察し、臓器の大きさや形の評価、腫瘍や結石などの病変の有無を精査します。



超音波とは…

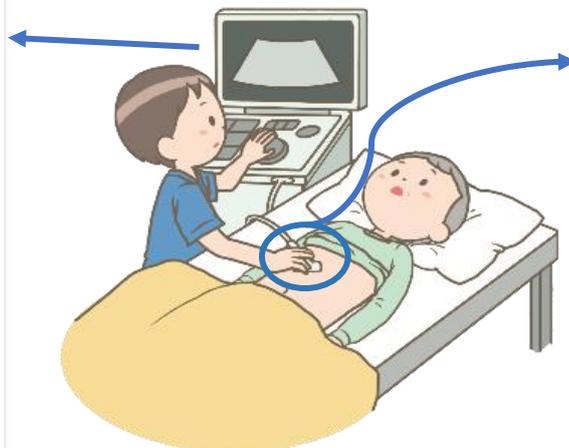
「人の耳には聞こえないくらいの高い周波数の音」のことです。
超音波検査はX線検査と異なり被曝の心配がなく、安全な検査です。

検査方法

洋服を捲りあげ、胸の下から腰骨付近まで腹部を広く出します。
ベッドに仰向けに寝て、両手を胸よりも高い位置で組みます。
腹部にゼリーを塗り、小さな器械(プローブ:探触子)を当てて観察します。
観察する部位により、大きく息を吸った状態で息を止めたり、
息を吐いたりしていただくことがあります。
検査時間は10~15分くらいです。



超音波診断装置
Canon Aplio i700



プローブ

検査を受ける前の注意

前日 22 時以降の食事は控えてください。

(昼以降に検査を受ける方は昼食を控えてください。)

少量のお茶や水は飲んでいただいてもかまいませんが、コーヒーやジュース、牛乳などの脂質を含む飲み物の摂取はおやめください。

なぜ、食事の制限があるのでしょうか？



食事による検査の影響

- ・胆嚢が収縮し、詳しい観察が難しくなる
- ・消化管ガスが増加することで、臓器が見えにくくなる



写真(左):空腹時の胆嚢

写真(右):食後の胆嚢 ※空腹時に比べると収縮していることが分かります。



上記のように、
検査前に食事をすることによって、観察できる範囲が狭く
なってしまいます。
より良い検査のためにも、ご協力よろしく申し上げます。